

# ROE と ESG の両面で目指す脱炭素経営の推進体制

## 明治ホールディングス株式会社 真の持続可能性成長企業の ESG 取り組み特集

ZUU online 著者

ESG(環境・社会・ガバナンス)は、投資家にとっても大手企業にとっても、投資先や取引先を選択する際や、企業の持続的成長を見る際の重要な視点になりつつある。各企業のESG部門担当者に、エネルギー・マネジメントを手がける株式会社アクシス・坂本哲代表が質問を投げかけるスタイルでインタビューを実施した。ESGに積極的に取り組み、未来を拓こうとする企業の活動や目標、現状の課題などを紹介する。

今回は、食品や医薬品をグローバル展開している明治ホールディングスの古田さんにインタビュー。財務、非財務の両方を同時に実現する「ROESG」をコンセプトに進められるグループ全体のサステナビリティ推進体制について聞いた。

(取材・執筆・構成＝山崎敦)



(写真＝明治ホールディングス株式会社)

**古田 純(ふるた じゅん)**  
 取締役専務執行役員 CSO  
 コーポレートコミュニケーション部・サステナビリティ推進部 管掌

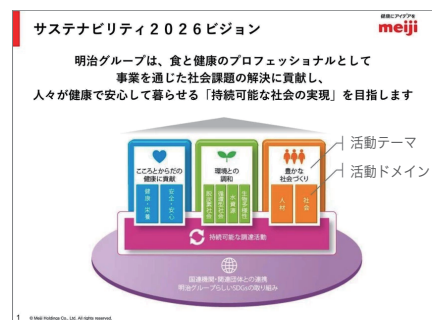
1957年生まれ。1981年明治製菓(株)入社。2013年(株)明治執行役員、14年より明治ホールディングス(株)取締役、執行役員IR広報部長を経て18年常務執行役員、海外投資家との対話を積極的に行い、情報開示の充実に取り組む。19年よりサステナビリティ推進部が新設され、同部管掌、「明治グループサステナビリティ2026ビジョン」や「Green Engagement for 2050」の策定を推進。20年より専務執行役員 CSO、IR広報部管掌および(株)明治取締役兼任、22年よりコーポレートコミュニケーション部管掌、現職に至る。

**明治ホールディングス株式会社**  
 明治ホールディングス株式会社は、食品事業を行う株式会社 明治、医薬品事業を行うMeiji Seika ファルマ株式会社およびKMバイオロジクス株式会社を傘下に持つ持株会社。

## 社会と環境の課題解決のために定めた「ROESG」というコンセプト

**アクシス 坂本氏(以下、社名、敬称略)：**最初に、明治ホールディングス様のESG(サステナビリティ)活動における考え方(基本方針)を教えてください。

**明治ホールディングス 古田氏(以下、社名、敬称略)：**明治ホールディングスにおけるESGの取り組みに関しては、2026年までを達成目標とした「サステナビリティ2026ビジョン」があります。明治グループは2016年に100周年を迎えましたが、その際に「10年ビジョンを作ろう」ということになり、事業ビジョンなどと併せてサステナビリティビジョンを策定しました。現在は2026年までのビジョンに沿って取り組みを進めており、それぞれ以下のような4つの活動テーマと、それぞれに対応した8つの活動ドメインを設定しています。



(画像提供＝明治ホールディングス株式会社)

こちらの3つのテーマですが、一つめは当社の事業と密接に関係している「こころとからだの健康に貢献」というテーマ。二つめは「環境との調和」で、自然環境に対する当社の取り組みです。三つめは「豊かな社会づくり」で、これは人権や労働環境といったような人それぞれに関係したテーマとなります。そして、この3つのテーマを横断した取り組みとして「持続可能な調達活動」という構成となっています。現在は「サステナビリティ2026ビジョン」をベースに2023年度までの中期経営計画を進めている状況ですが、併せて「経営とサステナビリティをどう融合させていくのか」「推進体制をいかに整備していくのか」という課題にも取り組んでいます。

「経営とサステナビリティの融合」という課題ですが、当社の中期経営計画のメインコンセプトは「明治ROESG」、すなわち財務と非財務を同時に実現していくことです。ROESGは一橋大学の伊藤邦雄教授が提唱されたものですが、こちらを明治グループ流にアレンジしました。

また、「自分ゴト化」も重要です。社員一人一人がサステナビリティを自分ゴトとして捉えて意識を高め、行動に移していく必要があると考え、さまざまな仕掛けをしています。例えばeラーニングなどWEBを使った仕組みを作り、意識から行動への落とし込みに取り組んでいます。

## 食品を通じた社会貢献で企業価値を高める

**坂本：**アクシスは地方IT企業として地域社会のための地方創生などの活動を精力的に行っていますが、明治ホールディングス様はどのような規模感で社会貢献活動や社会課題の解決を行っていますか。

**古田：**当社も食品と医薬品の事業を通じて積極的に社会貢献活動をしていきたいと思っています。ご承知のとおり、生活が困窮しているご家庭が現実問題としてありますので、そういったご家庭のお子さんに対して食品を提供していきたいという考えから、いくつかの活動を行っています。

その一つが、従業員参加型の社会貢献活動「明治ハピネス基金」です。従業員から集まった募金をもとにして「こども宅食応援団」という団体を通じてお菓子やレトルトカレーなどの自社商品を提供しています。これは年2回実施しており、前は約1万世帯に約5万4,000食を提供しました。もう一つは、会社主導で行うフードバンクへの寄贈です。現在は年3回、約40団体のフードバンクに対して当社商品を寄贈しています。

また、明治グループは日本リユースシステム(株)が行う「古着deワクチン」という取り組みを実施しています。家庭内で不要になった古着を集めて寄付することで、開発途上国のワクチン接種につなげる活動です。前はポリオワクチン約334人分の寄付に相当する約6,680枚の古着を回収しました。これは大変興味深い取り組みではないかと考えています。

他にも、当社の乳児用ミルクを全国の乳児院へ年2回ほど寄贈しています。また、生まれつきの代謝の異常などにより、母乳や市販の粉ミルクを飲め

ない赤ちゃんには、特殊ミルクを無償で提供しています。こういった様々な形で、これからも社会貢献活動を積極的に行っていくつもりです。

**坂本：**「古着deワクチン」は非常にユニークな取り組みかと思います。その他に脱炭素社会に向けた取り組みで、お客様参加型の企画はなにかありますか。

**古田：**お客様が楽しんで参加していただける企画があると印象もかなり変わってくると思います。ただ、すぐには利益につながらないことから挫折しやすいため、めげずにやっていきたいと思っています。

